



Fight! いざ! 出陣。壮行会

いよいよ明日から、3年間の部活動の集大成となる総合体育大会を初めとする各種大会やコンクール、発表会が始まります。各部とも3年生を中心に一生懸命練習に励んできたことと思います。中には、ケガをして別メニューで練習したり、黙々とトレーニングをしたりしている人もいました。振り返れば、毎日、本当によく頑張ってきました。いろいろなことを我慢して、いろいろな苦しさを乗り越えて、それぞれが自分自身や仲間を信じて今日まで来たと思います。

3年生は最後の舞台となります。この後下級生にバトンを託すわけですが、3年生一人一人が自分の役割をはたすことが、3年間の自分の挑戦にけじめをつけることにもなります。上級生も下級生も、選手も選手を支えるメンバーも、同じ気持ちで本番に臨んでほしいと思います。

そして、明日からの本番では、選手はもちろん支える側のメンバーが「勢い」を作ります。「強いチームには勢いがある」と言われます。

それは、仲間が一丸となっている集団には、目に見えないパワーが宿る、ということです。これは、運動部、文化部を問いません。実はクラスや学年、学校も同じなのです。

昨日の壮行会は、「船橋中学校」というチームが一丸となって応援することで、選手たちに「勢いのある船橋中学校」のパワーを送ることができたと思います。会場で応援を受けていたユニフォーム姿の選手たちは、みんないい顔をしていました。

壮行会では、部活動講演会の長濱会長からご挨拶いただき、55年前に本校バレー部に所属していたというお話を聞き、選手たちも身の引き締まる思いだったと思います。生徒会からの激励の言葉の後、各部活動の代表が宣誓をして健闘を誓いました。その決意に対して、私からは今年も船橋中学校の応援歌を、そして、生徒とともに大きな声でエールを送りました。

明日からの経験は、きっと子供たちにとってこれからの人生の財産になることでしょう。各部の代表生徒が健闘を誓ってくれましたが、私達にできることは健闘を「願う」ことです。子供たちがこれまでの部活動の集大成となるこの総体を通して、満足できる経験ができるよう、心から願っています。そして、昨日応援する側にいた人達も、いずれはどこかで応援してもらうことになる、ということも、ぜひ覚えておいてほしいと思います。

さて、本校に校歌とともに古くからある応援歌ですが、近年はほとんど歌われていませんでした。今年は壮行会までの2週間、放送委員会が毎朝放送で応援歌を流してくれていたのも、生徒も結構覚えたようです。本校の応援歌の歌詞は文語調で古めかしい言葉ですが、意味は、

- ・真夏の炎天下のグラウンドでひたすら練習に励む姿。
- ・日が短くなった冬の部活動の後に星を見ながら帰宅する姿。
- ・試合を間近に控えて今までの努力の成果を試合で発揮したいという願いと不安。

など、試合へ向けての応援だけではなく、今までの活動のことも含めてこれまで頑張ってきた一人一人に対してエールを送る気持ちが込められていて、愛情あふれた歌詞となっています。生徒に配布されている生徒手帳には、校歌とともに応援歌の楽譜と歌詞が掲載されています。また、本校のホームページでは校歌と応援歌が聴けるようになっています。ぜひホームページを開いて、聞いてみてほしいと思います。(校長通信もアップしています)

総体の総合プログラムに掲載されている挨拶文を裏面に掲載しましたのでご覧ください。



船橋市小中学校体育連盟

会長 向 笠 真 司

梅雨が明け、夏の日差しが降り注ぐ季節となり、今年も「総体」の季節を迎えました。部活動に所属する中学生にとって、総合体育大会は特別な大会です。特に3年生にとっては、中学校3年間で培ってきた力を発揮する最後のチャンスでもあります。一人一人がそれぞれの持つ力を十二分に出し切って、最高のパフォーマンスを発揮することを期待しています。

船橋市中学校総合体育大会は、前回の東京オリンピックが開催された1964年の翌年に第1回が実施され、今回で55回目の開催となります。その当時の中学生も、世界の選手のハイレベルな技術やプレーを見て、惜しめない拍手を送るとともに、いつの日か自分も…と闘志を燃やしていたことでしょう。

2020東京オリンピック・パラリンピックの開催もいよいよ来年となり、現在出場候補となっている選手の情報や、様々な競技の大会の様子がメディアで取り上げられることが多くなってきています。小・中学校時代を船橋で過ごした選手もいくつかの競技で候補となっており、中には中学時代に総体に参加していて、その名前がまだ記憶に新しい選手もいます。

もちろん、彼らも初めから高いレベルの技能を持っていたわけではありません。おそらく、みなさんと同じ年代の頃に様々な経験をし、悔しい思いや苦しい場面を乗り越え、その後も努力を積み重ねる中で自分自身を耕し続け、少しずつ力をつけていったはずです。それぞれの競技の第一線で活躍している選手が持っている力の基礎となっているのは、中学生の頃の経験によるものも大きいのではないのでしょうか。

「**艱難 汝を玉にす**」とありますが、苦しい場面を乗り越えた経験は、必ず大きな成長に繋がります。皆さんも、うだるような暑さの中、滴る汗を拭いながらこの大会の舞台に立つことになりませんが、「総体」という舞台で得るものは、きっと皆さんにとって一生の財産になることでしょう。その経験は、勝敗を超えて自分自身を大きく成長させてくれるはずです。これまで積み重ねてきた努力を胸に、チームのため、母校のため、そして何よりも自分自身のために、持てる力のすべてを出し切って悔いのない試合となるよう願っています。そして、試合中はもちろんのこと、どんな時にもルールを守り、マナーを忘れずにいてくれることを期待しています。また、この日が迎えられるのは自分だけの力ではなく、ともに練習に励んできた仲間や、いつも励まし応援してくれていた家族、これまで熱心に指導し続けてくれた先生方のお陰だということを忘れないでほしいと思います。

結びにあたり、本大会の運営に御尽力いただいております各種目専門部の先生方をはじめ、多くの大会関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。また、日頃より学校教育活動に温かい御支援と御協力をいただいております保護者・地域の皆様方に心より感謝申し上げます、挨拶いたします。